

## 高津区おはなしアーカイブ

### ●布川 勝之 (ぬのかわ かつゆき) さん

昭和11年生まれ 80歳  
川崎市高津区溝口在住



#### ◆父は山形から丁稚奉公に

父は、山形から出てきて、大山街道の大きな染物店「池田屋」で丁稚奉公からはじめた染物職人でした。

母も山形で、父の生まれたところとは少し離れています。当時は同郷同志の結婚が当たり前で、縁談がまとまったあと、母は結婚するまで父に会ったことはなかったそうです。

私が生まれた家は、今の帝京病院の脇に市場があって、その隣でした。

男ばかりの4人兄弟。私は次男です。

#### ◆道路・多摩川・砂利穴が遊び場

子どもの頃は道路が遊び場でした。車が通らないから、道路で野球や三角ベースをやったりしてね。二ヶ領用水や、多摩川で毎日のように泳いでもいました。

今、トナミ運輸があるあたりに東京に運ぶための多摩川のいい砂利を掘る穴がいっぱいあってね。機械船で掘った後の深い穴があって、本当はそこでは泳いじやいけないんだけど(笑)、お構いなしにそこでもよく泳ぎました。

周りには梨と桃の畑がいっぱいあって、当時、作っていた梨は赤梨、長十郎でしたね。田んぼも広がり、駅や街道沿い以外はみんな農家でした。あと、現在区役所があるあたりは沼地でしたね。

#### ◆朝から活気あふれる大山街道

大山街道は、朝から大八車が行きかう賑やかな通りで、活気がありました。

特に賑やかだったのは、宗隆寺が日蓮宗で、そのお祭りの「お会式」です。

父が働く「池田屋」が、この寺の檀家だったこともあって、私は高津幼稚園の一期生なんです。当時、幼稚園に行くのは商人の子だけでしたが、100人くらい園児がいてとても賑やかだったことを覚えています。

大山街道は終戦後も昭和30年頃にスーパーができるまでは賑わっていました。

#### ◆小学2年で山形に縁故疎開

小学2年生までは、高津小学校に通っていました。マンモス校で、1クラス50人はいて2部制授業でした。久地、末長あたりからも来ていました。国民学校、

軍事教育、嫌な時代でした。

2年生の時、戦火が激しくなり、母と生まれたばかりの弟と3人で山形の母の実家に縁故疎開しました。父と兄は仕事があったので溝口に残っていました。

母の実家は山の中で、何も無いところでした。畑を作り、自給自足の生活でしたが、春は山菜、秋は栗…食べるものに苦労はなかったです。

生まれたばかりで一緒に行った弟はそこで、麻疹にかかり十分な手当ができず1歳くらいで亡くなってしまったんです。疎開したのがいけなかったんだよね。

玉音放送は山形の小学校に集まって聞きました。「負けた」と泣いていた人もいたけれど、私は「これで家に帰れる」って思いました。とにかく不便で山を下って汽車の駅まで三里半歩くんだから。バスもなくて、歩くしかなかったところでした。

#### ◆戦争の記憶

戦火が激しくなってからは山形にいたので、飛行機もあまり見たことがなかったし、空襲の経験もありません。終戦の前日に飛行機が飛んできて、仙台を爆撃する飛行機だったらしいけれど、そのくらいの記憶です。

戦争が始まってから、父は軍需工場(東京衝機)に徴用され、染物店ができなくなりました。

家が2階建てで広がったので、部屋を大学生に貸していて、英語がペラペラのお兄さんが住んでいました。兄はそのお兄さんに英語を教わっていて英語がペラペラになってました。

疎開から戻ってきて、そのお兄さんは召集され戦地に行つて、亡くなったという話を聞きました。戦争というとなつてそういう記憶なんです。戦争は嫌ですよ。

#### ◆勉強のレベル差

5年生で、溝口に戻つてきて再び高津小学校に通いました。疎開する前の友達がたくさん元気にいました。

戻つてきてまず勉強のレベルが違うことに驚きました。山形でも学校に行つていて、成績はトップクラスだったんです。でも戻つてきたら、成績がガクンと落ちてしまい大変でした。山形では全部「優」だったのに、こっちに戻つたら全部「可」になつちやつて(笑)。あと、教科書を黒塗りした記憶もありますね。

小学校を卒業してからは、新制中学となつた高津中学校に進みました。学校は終戦でなくなつた日本光学の跡地にありました。このあたりは、全部日本光学でしたから。今、イトーヨーカ堂があるあたりも、北工場、南工場が広がっていました。日本光学の本社は大井町にあつて、軍需産業でしたし、工場はこのあたりで幅をきかせていましたね。



### ◆流行病で兄も失う

終戦後、池田屋はクリーニング屋も始め、英語ができた兄は横浜市日吉の慶應大学の並びにキャンプがあった進駐軍からのクリーニングの仕事を受け、父の片腕としてがんばっていたんです。ところが、昭和24年、兄は19歳の時に結核で亡くなりました。兄は優秀だったので母は兄の死を本当に嘆いていました。

当時、結核は不治の病で、薬が手に入らなくて、溝口の大通りにある店の跡とりは何人も結核で亡くなりました。

一番下の弟は昭和23年に生まれ、私とは12歳離れています。4人兄弟で今、生きているのはこの弟と私です。

余談ですが、当時、進駐軍が持ってきた服の布などはとてもいいものでクオリティーが全然違いましたね。

### ◆帝京大学溝口病院の変遷

今ある帝京大学医学部附属溝口病院は、昔は結核患者の病院でした。感染を予防するために塙で病院を囲う必要があるという理由で家の立ち退きを迫られ、家を壊され7丁目の今の住まいに移ったんです。

帝京病院は、最初は野村病院という個人病院でした。その後、溝の口病院となり、それから今の帝京病院になったんです。生まれた家の立ち退きを迫られた時は恨みましたが、今はその病院にお世話になっています(笑)。

### ◆南武線は難物線

中学校卒業後は、富士見公園と競馬場の間にあった「川崎トキコ（東京機器工

業)」という会社に就職し、工場で働いていました。南武線で通勤してましたが、当時は2両で混雑はすごかったです。川崎駅界わいでは日本鋼管が華やかでしたね。

この頃は、台風がくると平瀬川もよく氾濫し、氾濫すると南武線は線路が冠水して停まってしまったので、混雑のすごさもあり、「南武線は難物線」と呼ばれていました。

当時、川崎はノンプロ野球が盛んで、いすゞ、コロンビア、川崎トキコが3大チームで、そんなのにも惹かれて就職しちゃったんです(笑)。

いざ入ってみたら戦後でしたから爆撃を受けた工場はまだ穴だらけでしたけどね。

### ◆千年で養豚を手伝う

昭和37年に結婚しましたが、しばらくして、勤めていた川崎トキコの工場が海老名に移転しました。溝口から海老名は結構遠く、工場勤務で夜勤もあり通いきれなくなり、11年勤めて退職しました。

退職後は、親戚が千年で養豚をやっていて声をかけてくれ、そこで働き始めました。子どもも生まれたばかりだったので、食べていかなくちゃいけないと必死でした。当時は身体も細く、胃も弱く大変でした。

景気が悪くなり手伝っていた養豚も衰退しはじめた頃「役所に入らないか」とある方からお誘いを受けて、今の高津区役所のところにあった市の清掃局に入り、定年まで勤めました。当時は入庁試験な

どありませんでしたよ。

#### ◆映画、ジャズを楽しむ

溝口に2館、高津に1館、映画館がありました。映画は好きで、ロードショーの封切り日は、渋谷にあったパンテオンといういい映画館までよく電車に乗って見に行きました。当時、玉電という路面電車（現在の世田谷線）が渋谷と溝口をつないでいたのですが、それに乗って行っていました。その当時、映画代は200円くらいだったのかなあ。

ジャズも好きで、トキコに勤めていた頃、サッチモという愛称のルイ・アームストロングという世界有数のトランペッターが浅草国際劇場に来たので、給料1か月分をはたいてそれを聴きに行きました。すごい人がいるって感動しました。

当時、溝口にはジャズを聞けるような場所はなかったですね。

#### ◆新橋、銀座のダンスホールへ

結婚前は、新橋「パラマウント」、銀座「美松」といったダンスホールにしょっちゅう行っていたね。音楽は好きだったんです。会社で音楽好きな友達も結構いました。当時はいろんなバンドがありました。私は青春時代、ダンスホールなんかで結構モテたよ(笑)。

東京の「うたごえ喫茶」にもよく行っていました。

#### ◆2代目でもまだよそのものかな？

父は山形から丁稚奉公できて、大山街道の店で働いてきました。私は、そこで生まれた2代目ですが、今でも「よそも

の」って感じは否めないと感じています(笑)。



大山街道は、ねもじり坂のあたりを上宿（かみじゅく）、父が働いていた池田屋あたりは中宿（なかじゅく）、ハカリの田中屋さんあたりは下宿（しもじゅく）と呼んでいました。

父が働いていた染物屋の池田屋の前には島屋という呉服屋さんがある・・・商売がつながっていた街道でした。

今は溝口周辺は大きく変わってしまい、昔の面影はないですね。住んでいても日々の変貌についていけなくなっていますよ。

(平成29年8月16日取材)